

生薬解説 274 た一19

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
た一19	たんなんしょう 胆南星	苦、涼 肺・肝・脾	3～9g、煎服。
中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説			
中医生薬解説			
テンナンショウ属植物の塊茎		清化痰熱 痰熱の咳嗽に、黄芩・栝楼などと用いる「清气化痰丸」。	
に牛胆汁を混ぜて製したもの		熄風定驚 痰熱による意識障害、痙攣や癲癇などに、牛黄・天竺黄・全蝎などと用いる「牛黄抱竜丸」。	
参考		胆南星は天南星を牛胆汁で浸製したもので、苦辛が更に苦になり温性が涼性に変化し、燥烈の性が大幅に減弱し、性質が緩和で燥熱傷陰の弊害がない。	
(テンナンショウの塊茎を天南星といい、「天南星」の解説を参照されたし。)			